平成30年度　大和高田市立高田商業高等学校　学校評価　総括表

学校運営計画（４月）		評価（3月）
学校経営方針	○基礎･基本的な学力・生活習慣を身につけさせると共に、健康に留意し、人権を尊重できる生徒を育てる。 ○自立できる社会人としての能力をビジネス教育を通じて涵養する。	
年度重点目標	具体的目標	
・学習指導の充実 ・生徒指導の充実 ・進路指導の充実 ・資格取得指導の推進 ・部活動の活性化 ・学校、家庭、地域の連携と協働 ・学校の安全	・基礎･基本の定着を図り、情報活用能力を高めるとともに、自ら学び、考え、判断する態度を育成する。 ・基本的生活習慣の確立を図り、学校生活を通して忍耐力や集団への寄与意識の高い生徒を育てる。 ・情報収集に努め、生徒の能力･適性に応じた適切な指導を組織的かつ計画的に推進する。 ・上級資格取得に向け、計画的な取組を行う。 ・部活動の充実を図り、知･徳･体のバランスのとれた人間力を育成する。 ・ボランテイアや地域連携事業等への積極的な取組を通して「地域と共にある学校づくり」を推進する。 ・施設・設備の安全管理と事故防止に万全を期す共に危機管理意識の高揚に努める。	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価（３月）			次年度の主な課題
第1学年	基本的生活習慣を身につけさせ、一日も早く高校生活に慣れ、高田商業生としての自覚を持たせる。	規則正しい生活を送らせ、年間の皆出席者が75%以上、欠席者が120以下を目指す。	B	B	B	日々の生活についてきめ細かく指導し、基本的生活習慣や規範意識の徹底を図る。特に遅刻や欠席をなくし、課題提出など期限を守るように厳しく指導する。
		服装、頭髪等の身だしなみを整えさせ、礼儀正しく挨拶ができ、どんなことにでも我慢強く取り組むことのできる学年集団を目指す。	B			
		全員が部活動に入り、充実した学校生活を遅れるように指導する。	A			自主性を重んじ、学校行事や部活動など中心的な役割を果たせるようにする。
	学習習慣を身につけさせ、主体的に学ぶ態度を力を養う。	検定取得への意欲を高め、計画的に学習を進められるよう指導する。	A	A		検定を確実に取得し、自己の進路についてできるだけ早い段階で取り組めるようにする。
		スタディサポートを活用し、中学校の学習内容を確実なものにし、家庭学習の習慣をつけさせる。	B			
		実用英検を積極的に受験させ、準２級の合格目標を１５名とする。	A			
第2学年	中堅学年としての自覚を持ち、意欲的に学校生活を送らせる。	規則正しい生活を送るよう指導し、皆出席者80%以上、欠席総数100以下を目指す。	B	B	B	学校行事、部活動において学校の中心となり、何事にも全力で取り組めるよう、最高学年としての自覚を持たせる。
		行事・部活動において学校の中心となり、周りとの関わりを大事にして、リーダーシップを身につけさせる。	A			
	九州への修学旅行を成功させる。	修学旅行が安全で充実したものとなるよう、他の行事との兼ね合いも考えて早くから計画的に準備し、成功させる。	A	A		自分で考え、行動し、できる限りの努力をすることで、自分の進路を切り拓く力をつけさせる。
	進路に対する意識を高め、その実現のために積極的かつ自主的に取り組ませる。	合格目標（日商２級30名、全商英検１級20名、STEP準２級以上50名）を上回るよう、学年としての意識高揚をはかる。また、地域貢献活動やビジネスグランプリへの積極的な参加を促す。	B	B		
		スタディサポートを活用し、家庭でも自主的に学習に取り組む姿勢を養う。	C			進路決定だけでなく、豊かな心を持って高校生活最後の１年間を過ごさせる。
第3学年	最高学年として下級生の模範となり、責任ある活動をする。	年間欠席80以下、皆出席85%、３年間皆出席100名以上を目標とする。	A	A	B	欠席・遅刻、問題行動を減らすために基本的な生活習慣やルールについてホームルーム等を利用して頻繁に点検させる。
		行事でリーダーとして後輩の指導に当たらせる。	A			
	自らの特性に応じた進路実現のために自ら計画し行動する。	進路につながる授業や講座をしっかりと受けさせ、教員に頼り過ぎず自主的に進路実現に取り組む姿勢を養う。	B	B		受験の多様化、複雑化に対応できるように様々なパターンを三者懇談時に提示できるように準備する。
		担任を主として進路計画を立てさせてその実現のために進路指導部や学年が連携してサポートし、難関大学合格50名以上を目指す。また、日商簿記2級40名、全商英検1級35名、STEP英検準2級以上65名を目標とする。	B			教員の受験指導の負担を減らすためにも教科で受験できる生徒を増やす。
	進路決定後も落ち着きと思いやりをもって行動する。	進路決定後にも検定取得や学級活動に積極的に取り組ませ、進路未定の生徒に配慮した環境づくりを行う。	B	B		何事にも自主的に行動するように指導する。
教務	特色ある学校を目指し、教科学習の学力充実と指導力の向上に努める	授業で情報機器を積極的に活用できるよう創意工夫する。	A	B	B	授業で情報機器を積極的･有効的に活用できるよう工夫する。
		家庭学習の習慣をつけるための取組を行う。	C			家庭学習の習慣をつけるための取組を行う。
		主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善のため、校内の研究授業を行う。	B			主体的･対話的で深い学びの実現に向け、校内の研究授業を行う。
		指導要領改訂に向けた教育課程作成に取りかかる。	B			指導要領改定に向けた教育課程作成に本格的に取り組む
	教育活動の円滑な推進に取り組む。	指導要録デジタル化がうまく運用できるように取り組む。	A	B		来年度で指導要録デジタル化が3学年揃うので、使いやすいように改良する。
		パソコン運用における情報の共有を図り、情報セキュリテイに関する職員の意識を高める。	B			パソコン運用規定を見直し、情報セキュリテイの意識を高める。
生徒指導	規範意識の醸成を目指し、規律ある高校生活を確立させる。	欠席総数300以下、年間皆出席80%、校門遅刻35以下の達成を目指す。	C	C	B	欠席総数３５０以下、年間皆出席８０％を目指す。
		登下校時の通学マナー向上を目指す上で、特に自転車通学生へのマナー遵守を徹底させる。	B			登下校時の事故０を目指し、自転車通学生のマナー向上に努める。
		問題行動年間10以下、携帯電話に関する指導を5以下を目指す。担任を中心に生指部との連携を図り指導に当たる。	C			問題行動件数年間１５以下、携帯電話指導５以下を目指す。
	特別活動の充実を図る。	生徒会だよりを定期的に発刊する。	A	A		生徒会活動の活性化を図る。
		部活動に対して高い意識を持たせ、高い目標を持って活動する生徒を育成する。	A			全国大会、近畿大会に出場し、入賞を目指して取り組む。
	道徳教育の充実を図る。	こころの教育を確立し、豊かな人間性を目指すとともに思いやりのある生徒を育成する。	B	B		いじめをなくし、人の気持ちを考えることのできる生徒を育てる。
	ボランティアの充実を図る。	地域との連携を図り、自ら自発的にボランティア活動への積極的な参加を図る。	B	B		さまざまなボランティア活動に自主的に参加するように呼びかける
	安全教育の推進を図る。	防災・防犯教育を通して、危機管理意識の醸成に努めると共に、貴重品管理や教室の施錠を徹底させる。	B	B		貴重品の管理、教室の施錠を徹底させる。
	校内や通学路の美化に努める。	学校環境整備に向けた点検を行い、修繕していく。	B	B		校舎外のゴミの処理の徹底、校内美化に努める。
		ごみの分別をはじめ、校内の美化に取り組む。また、地域の清掃活動等を通して公共心を養わせる。	B			
		四季の花を通じて常に季節を感じられる学校づくりを目指し、その管理を徹底させる。	B			校内の緑化を充実させる。
進路指導	生徒の能力・適性に応じた進路指導の実現を目指す。	４年制大学進学希望者のうち、国公立大学および難関私立大学の合格者を50名、中堅私立大学以上の合格率を75%以上を目指す。	B	B	B	入試の「定員厳格化」により、中堅私立大学以上の合格が厳しい状況である。目標達成のため新しい入試改革に関する情報を集めて、より合格ができる指導を心がけ合格率75%を目指す。
		就職希望者が希望する職種の確保、優良就職先の継続、卒業生の離職の減少のため、積極的に企業訪問を行い早期に就職定率100%を目指す。	A			生徒が希望する就職先の確保に努め、積極的に企業訪問を行う。また、卒業生の離職を避けるため、キャリア教育の充実を図る。
	組織的な進路指導体制の充実。	全職員の共通理解と組織的かつ計画的な取組を目指し、早期より３年の教員を中心に職員全体で小論文（面接）指導およびＡＯ入試対策に取り組む。	B	B		小論文指導やＡＯ入試対策の職員全員体制は形骸化しつつあり、具体策を考える必要がある。
		スタディサポートの活用方法を再考し、教科で受験するための実力を養い、挑戦させるための情報を集め、教科受験を積極的に勧めていく。	C			新しい入試改革に含まれる「高校生の学びの基礎診断」制度をふまえスタディサポートの活用方法を再考する必要がある。
		入試説明会の参加および個々の大学訪問を推進し、新テストに向けての情報を収集してデータの共有できる体制を構築する。	B			キャリア教育に関して十分な計画を立て、生徒の進路実現に向け、勤労観や職業観を養う。
	キャリア教育の推進。	早期から進路に対する関心や意識を持たせて、様々な学校活動を通して、生徒一人一人に応じた指導を行い、しっかりとした勤労観や職業観を養う。	B	B		
		グループワークなどを積極的に実施して、現在の社会に必要とされる人材の育成に努める。	B			
文化厚生	図書館の利用者や貸出冊数を増加させ、読書習慣を定着させる。	図書委員を中心に活動を充実させる、また、図書館利用の広報活動を行い、図書貸出冊数年間３００冊以上を目指し、図書館活動の活性化に努める。	B	B	B	図書の利用方法について再検討を行う。図書館活動・自習室としての機能を充実させる。また、図書貸出冊数は、年間３００冊を目指す。
	文化部活動を活発化させる。	部活動をより積極的に行い、各種競技大会の近畿・全国大会出場選手２０名以上を目標とする。また、出場だけでなく上位入賞を目指す。	B	B		近畿・全国大会の出場と上位入賞に向けて、更なる活動を活発化させる。また、文化部の部員数を増やす活動を行う。
	文化的行事を充実させ、意義あるものとする。	舞台発表のクオリティを上げ、更なる向上を目指す。見応えのある舞台を目標に取り組む。	B	B		早い時期から取り組み、充分な練習・準備時間を確保するようにする。また、舞台出演のクオリティを向上させる。
		企画・運営を計画的に行い、文化委員に自覚と役割を持たせ準備・片付けを行い成功に導く。また、販売品目を精選し市商祭の活性化に努める。	B			文化委員を自覚させ文化祭の意義を理解し、企画・運営力が養成できるよう指導する。また、市商祭の内容を精選し、販売体験を通じて充実した活動を行い成功に導く。
	広報活動を積極的に行い、内容のある活動を行う。	学校新聞・学校パンフレットの内容を更に充実させ、意欲的に広報活動を行う。ホームページのコンテンツを研究・再検討を行い、改良を行う。	B	B		広報活動の更なる充実と内容の向上を目指す。また広報の内容を改良し、コンテンツの工夫を行う。
保健体育	体力の向上に取り組む	スポーツテストでA判定を１３０名以上を目指す。	A	B	B	体力の向上とバランスのとれた体作りを意識させ、怪我の予防につなげる。
		体力の向上を目指し、怪我の予防に取り組む。	B			
	健康教育を推進する	保健の授業でがん教育に取り組む。	C	B		感染症予防の意識付けや啓発活動を行う。
		運動を安全に行えるように各施設の整理整頓を行う。	B			保健の授業でがん教育に取り組む。
		学校保健委員会に向け職員研修を行う。	A			全国大会や近畿大会にむけ、競技力の向上を目指す生徒を育成し、部活動を通じてルールやマナーを守れる資質を育てる。
	部活動を通じて知・徳・体を育てる。	全国大会や近畿大会に延べ３００人以上の出場を目指す	B	B		
		ルールやマナーなどの道徳的な部分の育成をする。	B			
人権教育	一人ひとりのつながりを大事にして、命を大切にする。	プリント資料・DVD等を提供して、最近の諸問題に対応した話し合いのLHRの充実を図る。	B	B	B	ここ数年同じ教材を使用して実施しているため、教材の精選を行い新しい教材の提供に努める。
		各種アンケート（いじめ・情報機器）を通して実態把握と共に、早期発見・対応に努める。	B			いじめのアンケート調査は、各学期１回実施し、いじめ件数０を目指す。情報機器に関するアンケート調査は、年１回は実施し、ＨＲ展開にもつなげる。
		いじめ件数の０を目指す。	B			
	一人ひとりの違いを個性や豊かさととらえ、違いを認め合えるなかま作りを行う。	各種交流会やボランティア活動への自主的・自発的な参加を促し、HR等あらゆる場面で発信する。	C	B		情報の発信だけにとどまっているため、積極的に生徒が参加しやすい勧誘方法などを工夫する。
		「なかまだより」の内容を、保護者がより関心を持ち読んでいただき、各種講演会等に参加を促す。	B			懇談会で直に渡すようにはなっているが、保護者が興味・関心が湧くような内容を盛り込む工夫を行う。
		職員研修の年１回実施や各種研修会への積極的な参加を要請し、実践力の向上に努めていただく。	B			出来るだけ他の分掌と時期が重ならないよう配慮しているが、本校で必要と思われる内容の研修を検討する。
		教育相談活動の充実を図ると共に、養護教諭と連携を密にして生徒の実態把握に努める。	C			外部のカウンセラーや養護教諭と連携を密にして、生徒の実態把握に努め、早期発見・対応を行う。
商業科	上級資格取得を目指す。	全商１級３種以上の取得率日本一を目標にし、２年生での検定取得に向けた取り組みの充実を目指す。	B	B	B	全商１級３種以上の取得率９５％以上を目標にし取得率日本一を目指す。２年生での検定取得に向けた取り組みの充実を目指す。
		日商簿記２級の合格者４０名を目指す。	C			日商簿記２級の合格者４０名を目指す。
	地域との連携の強化に努める。	毎年参加しているイベントを通じ商工会との連携を図り、研究開発の充実を目指す。	A	A		暮らし産業フェスタ等を通じ地元の企業との連携をより一層深めて商品開発に協力していただけるように取り組む。
	ビジネスプランに基づく知識や技能を身につける	ビジネスコンテストなどに積極的に参加するとともに、まち部との連携を図り地元の活性化に取り組む。	B	B		まち部との連携を図り組織化して、積極的に地元の活性化に取り組む。
	高大専の連携の強化を目指す。	生徒の多様な進路に向けたスキルの向上に向けた取り組みを目指す。	A	A		大学との連携を通じ将来の職業観を早く意識できるような取り組みを目指す。